

令和5年度入学 一般選抜後期日程

外国語(英語) 講評

第1問

【出題のねらい】

専門的な語彙が含まれている文章の大意をつかんだ上で、文の構造、文法、語法、単語を理解し、内容を把握する力をみることをねらいとした。

【講評】

全体の正答率は2割程度であった。記述問題であったため、受験者にとっては難易度がかなり高かったと思われる。

問1

とくに、関係詞と分詞の文法問題の正答率が著しく低かった。基本構文、文法、語彙などに関する問題であり、前後の文脈から解答を推測することができる。基本的な文法を確認しておくことが望ましい。

問2

全体の正答率が大変低かった。synthetic pesticidesの意味を読み取れていない解答が多かったが、それ以外にもso thatを使用した文の構成を理解出来ていない解答も目立った。まずは文章の大きな構成を見抜いた上で、文意を読み取ることが大切である。

問3

前半部分のthis industryに対して、指示代名詞が何を示しているのかを理解できていないため、殺虫剤に言及せず、「人工的な化学物質に関する産業」とした解答が非常に多くみられた。また、後半部分のchildを、そのまま「子ども」と直訳した解答も散見された。第二次世界大戦の「火種」・「きっかけ」・「もたらした」等、本文の内容とは逆に理解している誤答も目立った。文脈を理解した上で、問題になっている箇所の意味を正しく読み取ることが重要である。

問4

全体として正答率が大変低かった。英文の難易度が高く、内容を理解していない受験者が散見された。inorganic「無機物」を「naturalではなく、何か有害なもの」と捉えて、下線

部以下のThese were…の中で比較している解答が多く見られた。また、man-madeを「男性が作製した」と誤訳している解答も散見された。

問5

人工的に作られた殺虫剤の生物学的な影響を、具体的に4項目記述してほしかったが、すべて記述できている受験者は少なかった。関係代名詞のwhose, from which, oxidation process (酸化の過程) の訳を正しく行えていない受験者が散見された。また、本文の内容ではなく、自身の持っている知識で勝手に解釈している解答も多くみられた。さらに、the slow and irreversible change (ゆっくりとした、元に戻せない変化) の“変化”がどこを修飾しているのか正しく把握できていない受験者も散見された。本文の文法や文構造を適切に解釈することが望まれる。

第2問

【出題のねらい】

文章を読み、内容を正確に把握する力をみることをねらいとした。問1から問4までは、文章中の特定の部分に関する理解を問う問題で、問5は、タイトルを考えさせることで、文章全体のテーマの理解を問う問題であった。

【講評】

全体の正答率は5割程度であった。長文の流れをつかみながらも、細かい箇所まで読み解くことが求められる。

第3問

【出題のねらい】

会話文を読み、それぞれの状況において、適切な英語によって会話を表現する力をみることをねらいとした。その上で、その場にふさわしい単語や表現を用いて、会話を作成できるかを問うた。

【講評】

全体の正答率は3割程度であった。本問題は、二人の会話における適切な表現を理解しているかを問う問題であった。

問1

前後の文脈から、どのような表現が適切なのかを推測しながら解答する必要がある。例えば、③に関しては、ATMの前の冠詞の“the”により、ATMがその店の中にあることを示しているが、

多くの受験者がそのことを理解していないようであった。また④において、多くの受験者が、「wait」とだけ解答していたが、これは的確な表現ではない。

問2

全体の正答率は5割程度であった。①は、ほとんどの受験者が「What's it called」と解答できる問題であった。また、最も正答率が低かったのは③で、アメリカにビビンバがあるかどうかをたずねていることが、次の文章を読んでも理解できなかったようであった。「ビビンバを作るのは楽しいか」または「辛いか」とたずねていると思った受験者が多かったようである。

第4問

【出題のねらい】

英語の会話文を読み、会話の流れをつかむ力をみることをねらいとした。その上で、流れにふさわしい発話を選ぶかを問うた。

【講評】

全体の正答率は7割程度であった。本問題に正答するためには、多くの会話文を読むことで話の流れをつかむ練習をすることが望ましい。とくに、会話で多用される決まり文句などを覚えることや、日常生活に関する身近な話題について会話的な英語で表現する練習をしておくことが、会話表現を適切に使用する上で役立つだろう。

第5問

【出題のねらい】

本問題は、提示されている条件に最低限従い、題目に関して賛成か反対か、自分の意見を英語で述べる力をみることをねらいとした。

【講評】

全体の正答率は4割程度であった。多くの解答で文章中の主語に一貫性がなく、別の主語に変わっている文章が散見された。また、名詞や形容詞、動詞の使用が適切になされていない解答も多くみられた。内容に関しては、英文を5文以上書くという条件であったためか、5文のみの解答が多かったが、自身の意見への論拠を詳細に示すためには英文を5文以上書き、内容を深めた記述とすることが望ましい。